

阿蘇海環境づくり協働会議 令和5年度の取組

1 意識醸成の取組

●「阿蘇海の日」事業（市、町）

「美しく豊かな阿蘇海をつくり未来につなげる条例」に基づき、毎年「阿蘇海の日」を定め、両市町が共同で啓発活動等の取組実施。

実施日	実施概要
令和5年7月17日 (月・海の日)	阿蘇海フェスタの開催 (会場：みやづ歴史の館) ※詳細は宮津市報告資料参照



※阿蘇海フェスタ会場内において、協働会議の取組をパネル展示し、美しく豊かな阿蘇海を未来につなぐメッセージを募集（計33点）

●環境ポスター掲示による啓発活動（町）

地域の小学生を対象に実施。入賞作品をパネルやポスターにして、地域内で掲出するなど意識啓発も実施

実施内容	応募数
環境改善絵画コンクール	与謝野町：145点



※令和3年度より協働会議賞を新たに追加

●環境学習のサポート（府）

実施内容	実施日時
身近な川の生物調査（小学生対象・阿蘇シーサイドパーク）	令和5年9月25日

●野田川及び阿蘇海についての環境啓発出前授業の実施（町）

実施内容	実施日時
環境を守る取り組みについて（石川小）	令和5年6月15日
阿蘇海の現状と環境を守る取り組みについて（岩滝小）	令和5年7月14日
環境を守る取り組みと米作りについて（三河内小）	令和5年9月15日
阿蘇海環境学習会（橋立中学校）	令和5年9月26日

●阿蘇海についての環境啓発出前授業の実施（市）

実施内容	実施日時
阿蘇海を未来につなぐ（宮津天橋高校宮津学舎テーマ学習）	令和5年7月13日

2 流入負荷の削減に向けた取組

●下水道事業、浄化槽設置補助（市、町）

市町	実施内容	R5実績
宮津市	・高齢者世帯排水設備整備費補助	2件 20,000円
	・浄化槽設置費補助	27件 16,855,000円
	・浄化槽維持管理費補助	400件 8,000,000円
与謝野町	・浄化槽設置整備事業補助	5件 3,260千円
	・水洗便所改造等奨励制度	4件 120千円
	・融資あっせん制度及び利子補給金	なし
	・浄化槽維持管理費補助	(見込) 92件 2,400千円

※浄化槽維持管理費補助のR5実績は未確定のためR4実績を記載

《水洗化率》

宮津市全体	R4: 85.9%(R3: 85.5%)
吉津	R4: 87.2%(R3: 87.0%)
府中(江尻地区除く)	R4: 55.1%(R3: 55.7%)
与謝野町全体	R5: 81.5%(R4: 80.5%)

●天ぷら油の回収（市町等）

流入負荷軽減の取組として、NPO法人に協力し、市町庁舎のほか、公民館、観光施設、保育所などに回収ボックスを設置。

回収された油から、BDF燃料（バイオディーゼル燃料。植物油（使用済み天ぷら油等）から作られる軽油の代替燃料。）を町内NPO団体が精製している。

●浅水代かきの推進（町）

田んぼから栄養を多く含む水が流ないようにする農法である「浅水代かき」を推進。

●自然循環農業（京の豆っこ肥料）の推進（町）

豆腐工場からでたおからを使った「京の豆っこ肥料」を推進し、化学肥料から有機質肥料に転換することで、与謝野町ブランドを確立するとともに、阿蘇海等環境に優しい農業の促進を図る。

●森林保全・里山整備の取組（森林組合）

阿蘇海周辺の森林整備を進めることにより、阿蘇海上流域である野田川流域の環境改善の取組を推進。

●森林保全・里山整備の取組（市、町）

市町村森林整備計画に基づき取組を推進。

令和4年から私有林人工林の適正管理に向けた取組も実施

●野田川及び他支流河川の水質調査とその公表（町）

町の水質環境を維持、改善していくため町内14か所で河川の水質調査を行い、町HPや広報誌において各河川等の水質数値の現状を公表。阿蘇海の水質浄化の取組みとしている。

3 悪臭・景観対策の取組

●海岸清掃活動（行政・地域団体等が協働実施）

＜与謝野町男山区：アオサ回収＞

実施日時	参加者	回収量
アオサの発生がなく実施せず	—	—

＜宮津市府中地区（天橋海岸～大垣海岸）：漂着ゴミ回収＞

実施日時	参加者	回収量
令和5年7月4日(火)	約50名	3.4t
令和5年10月18日(水)	約50名	2.0t

※上記以外にも、4月・12月にも地域住民による取組を実施

＜与謝野町東町区、浜町区（岩滝海岸）：漂着物収集処分＞

実施時期
5月、8月、9月、11月

※8月・9月には、令和5年台風7号により海岸に漂着した流木等の撤去作業のべ83名が参加して実施

＜野田川清掃＞後野区

実施日時
令和5年10月15日

＜クリーンはしだて1人1坪大作戦＞

実施日時	回収量
令和5年4月16日(日)	15.0t

＜迎春天橋立一斉清掃＞

実施日時	回収量
令和5年12月10日(日)	15.0t

●NPO国際ボランティア学生協会（IVUSA）と連携した阿蘇海清掃

大学生ボランティアを受け入れ、より大規模な清掃活動を実施。また、活動を通じて地元住民との交流を深め、新たな取組の場づくり・環づくりを推進



<カキ殻回収事業>

実施内容	実施日時	参加者	回収量
夏プロ	令和5年9月1日(金)～4日(月)	大学生77名 地元 36名	約4.5 t
春プロ(予定)	令和6年3月1日(金)～4日(月)	大学生約60名	

<その他：学生と地元との連携・交流> ※IVUSA主催事業

実施内容	実施日時	参加者
子ども向け環境学習会	令和5年9月3日	32人
阿蘇海生物調査(予定)	令和6年3月1日	
子ども向け環境学習会(予定)	令和6年3月3日	

●原木漁礁の沈設（漁協溝尻地区運営協議会）

年2回の阿蘇海清掃に加え、原木漁礁の沈設を実施。

●ちょこっとボランティア（市町等）

阿蘇海とその流域の水質浄化や、ポイ捨てしない環境づくりを行い、阿蘇海周辺、野田川をはじめとする阿蘇海流域河川の美しくするため、ポイ捨てごみを、家族や友だち、各種団体などで気軽に拾ってもらおうという「ちょこっとボランティア（愛称：ちょこボラ）」事業を実施。

いつでも誰でも気軽に「ちょこっとボランティア」できるようステーションを阿蘇海周辺7カ所に設置。専用ゴミ袋の配布、回収ゴミの一時預かりを開始。回収ゴミの処理は市町が行う。

《設置場所》

吉野茶屋（文珠）、一ノ宮汽船乗り場（府中）、阿蘇シーサイドパーク（岩滝）、クアハウス岩滝、与謝野町役場（本庁舎、野田川庁舎、加悦庁舎）

また、「ちょこボラDAY」と題して、よさの百年の暮らし委員会（愛称：みらいふ）主催による清掃ボランティア活動を実施。

4 阿蘇海流域の「宝」の活用

●カキ殻資源活用の推進（農業者等）

阿蘇海に堆積するカキ殻を回収したのち、土壌改良材として、果樹園・桑畑等の農地で活用。

●潜水調査によるアマモ場の維持管理（府立海洋高校）

海洋高校海洋技術コースにおいて、潜水技術を活かした、アマモ場の調査・種子採集・播種等を実施。宮津湾への流入口付近に分布するアマモ場の様子を継続的に観察・記録（平成23年度から継続して実施）。

※海洋高校生と生物調査に関わるIVUSAの学生のオンライン交流を実施（R6. 2. 17）

●野田川のサケを見守る活動の推進（町）

野田川にサケが還ってくる10月下旬から12月上旬の前に、後野区や後野農地水組織が中心となって、野田川清掃を実施。毎年度、野田川上流にサケの姿が見られている。

実施内容	実施日時	参加者
野田川清掃活動（後野区×IVUSA）	令和5年10月15日	49人

●環境学習のサポート（府） ※再掲

実施内容	実施日時
身近な川の生物調査（小学生対象・阿蘇シーサイドパーク）	令和5年9月25日

●野田川及び阿蘇海についての環境啓発活動（町） ※再掲

実施内容	実施日時
環境を守る取り組みについて（石川小）	令和5年6月15日
阿蘇海の現状と環境を守る取り組みについて（岩滝小）	令和5年7月14日
環境を守る取り組みと米作りについて（三河内小）	令和5年9月15日
阿蘇海環境学習会（橋立中学校）	令和5年9月26日

※岩滝小学校の取組においては丹後の環境シンポジウムにおいても活動発表を実施

●阿蘇海についての環境啓発活動（市） ※再掲含む

実施内容	実施日時
阿蘇海の環境についての探究学習（吉津小）	4月～10月
阿蘇海を未来につなぐ（宮津天橋高校宮津学舎テーマ学習）	令和5年7月13日
天橋立保全活動（府中小）	令和5年7月14日

※吉津小学校の取組においては阿蘇海フェスタにおいても活動発表を実施

5 専門的対策

●阿蘇海水質等調査（京都府総合政策環境部）

今後の環境改善に向けた基礎知見をまとめるため、令和4年度に引き続き、水質の鉛直分布特性を明らかにする調査を実施し、その季節変化について分析する。

実施内容	委託先
阿蘇海水質の季節変化とその要因の分析	(学)立命館 立命館大学 総合科学技術研究機構

【R5調査から得られた知見（概略）】

- 水温や塩分濃度の鉛直分布（水深による違い）等进行分析したところ、過年度は2～3m深の塩分濃度が薄く、上層と下層が混ざりにくい状態が見られたが、2023年度は、それが弱まり、阿蘇海の表層でも塩分濃度が高く、上層と中層が混ざりあいやすくなっている傾向が確認された。
- DO（溶存酸素量・0だと生物が棲めない）の空間分布や季節変化を分析したところ、底層のDOは依然として低いが、2023年夏・春は弱い鉛直混合（上層と中層と下層の水が混ざり合うこと入れ替わること）を起こした可能性があり、表層DOの低下/底層DOの多少の回復が見られ、底層の貧酸素水塊が湧昇する可能性も示唆された。
- ㊦近年の少雨傾向で、春から秋にかけては、鉛直混合が起こりやすい状態が今後も続く可能性がある。
- ㊦鉛直混合が起こりやすい状態が続いた場合に、表層の富栄養化を促進する可能性もあるが底質に長期に残留している汚濁物質や貧酸素の水塊が移動した場合の悪影響についても懸念される。